



～地域とともにある学校をめざして～

鯀コミ

R6年度 CS通信No.13 R7.2.10



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

学校支援ボランティアによる図書室の整備 (1/20 鯀ヶ沢中)



図書室の本にシールを貼ってくれるボランティアを探してほしいという依頼があり、地域学校協働活動推進員の工藤律子さんが、声をかけ、5名の学校支援ボランティアが集まりました。

ボランティアの皆さんは、予め印刷しておいた紙ラベルを背表紙に貼り、その上に本のカバーを隙間なく貼りつけていました。ボランティアの方々に今日の作業のことを聞いてみると、

「初めての人でも、ボランティア同士で教え合いながら作業ができる。」

「ボランティアが終わった後も、図書のことや作業内容について話ができて、楽しい。」

「作業道具の入ったボランティアボックスのようなものがあれば、いつでも都合の良いときに来て、図書の整備ができる。」

と話していました。

今後は、図書整理の手順を再確認し、図書担当の先生方を助けたいと話していました。

西海小学校で4・5・6年スキー教室(1/30)



鯀ヶ沢町の小学校では、ふるさと学習の1つとして、町にあるスキー場を利用して、毎年、スキー教室を行っています。今回は、私(藤田)も学校支援ボランティアに加わり、スキーの指導をしたり、補助をしたりしました。

当日は、風の影響で朝からゴンドラが止まり、子どもたちはがっかりしたようですが、リフトに何回も乗ることで、スキー技術が上達しました。

午後は、すぐに転ぶ子が減り、スピードをコントロールして長い時間乗れるようになりました。

今回のスキー教室は、少人数の班編成で、状況に応じて、班を一緒にしたり、分けたりしたことが効果的だったと思います。

最後の閉会式では、子どもたちの楽しかったという声がたくさん聞かれました。子どもたちは貴重な体験をし、大きな自信を得たようです。

舞戸小学校で第5学年スキー教室(2/6)



スキー教室は、教職員4名の他に、外部講師7名、学校支援ボランティアが3名集まり、児童の活動支援を行いました。

5年生の場合、約半数の15名が初心者で、スキー靴を履くのもスキーを着けるのも初めてです。そこで、学校支援ボランティアの皆さんは、子どもたちに寄り添ってスキー靴の履き方やスキーの着脱の仕方を教えていました。

この日は、猛吹雪で前が見えなくなることもありましたが、子どもたちは、講師の先生方の話をよく聞いて、一生懸命、滑りの練習をしました。

そして、午後になると、プルーク(ハの字)でスピードコントロールしたり、左右にターンしたりして楽しく滑ることができるようになりました。